

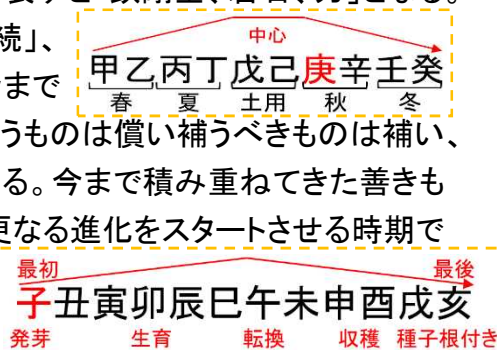
2020年の動向と処世について

1. 2020年の動向

2020年は干支暦で庚子年となる。空間を天干、時間を地支と定義し、時間と空間を組み合わせて現実が生まれるとしている。天干を甲乙丙丁戊己庚辛壬癸の十種類、地支を子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥の十二種類に分類し、天干地支の組合せで干支暦は出来ている。十干と十二支で120パターンが出来て、その60個を陽、もう半分の60個を陰と定め、干支暦は陽の60個を使用する。その中で2020年は天干が庚、地支が子の庚子年となる。

天干	甲乙丙丁戊己庚辛壬癸
地支	子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥

まず庚子の意味合いを解説してみよう。十干の庚は金性の陽で季節は秋である。秋は全ての農作物を収穫する時期であり、同時に稲作の終わりの時期でもある。今まで継続してきたものを収穫し、終わらせる時期となる。また庚は五行表の「自然界の事象」で表すと「鉄剛金、岩石、刀」となる。このことから庚には3つの意味が付されている。1つは「継承・存続」、2つは「償う、補う」、3つは「更新、革新、改める」である。つまり今まで
のものを継承・存続しながらも、課題や罪・汚れを払い浄めて、償うものは償い補うべきものは補い、必死の覚悟で変革をして改めていく事をテーマにせよと説いている。今まで積み重ねてきた善きものは継承し、課題をすべて洗い出し、その課題を償い補う事で、更なる進化をスタートさせる時期である。一方、子は十二支の最初を司る。今までの12年間の最後であった亥から、子へと継承する転換期となる。子は種子が土の中で発芽の時期を迎えた事を意味し、丑～巳で芽が徐々に育ち、午で陰陽の転換点を迎え、未～戌と実を付ける。そして最後の亥で地面に落ちた種が土へ埋まり、次世代の生命へと繋がっていく。子は新たな時代のスタートの時期である。子は陽の水性であり、先祖、目上、格調の高さ、そして過去からの学びという意味合いがある。また増殖するという意味もある。ネズミの繁殖能力の高さからきている。何かを始めて増やしていくのには非常に善き時期となる。



それでは、庚子を組み合わせた意味を考察しよう。庚と子は、相生相剋論で金生水という相生関係にある。相生とは一方がもう一方を生じる状態である。庚子は、金が水を生成するという意味になる。溢れ出ようとする水の流れを金が更に後押しをして溢れんばかりの清流が流れ出すという事になる。2018年戊戌で変転変化が起こり、2019年己亥年で新たなステージへの準備を行い、2020年庚子で大きく飛躍していく非常に重要な、そして良くも悪くも異常な状態が起こり易い3年間の3年目に該当する。この3年間はアップダウンが激しい時期でもある。従ってこの2020年の庚子年を、如何に大切なものを継承しながらも変転変化を取り入れて生きていくかが重要となる。また天地相生の干支は2014年の甲午年以来で6年ぶりの年となる。天(精神)と地(現実)が生かし合い、気の流れがスムーズにいくチャンスの時期になる。天地相称の干支が廻る時期は気が満たされ、成果を創り出しやすいという特徴がある。2020年を違う視点で捉えると七殺理論が適応される。2020年はオリンピック開催年となるが、日本に誘致が決定したのが2013年癸巳年である。この年から7年後の今年にオリンピックが開催される。7年前にスタートした事象が7年後に完結するという、正に七殺理論そのものである。理論通りに現実が動いているので、経済効果という観点で2020年の東京オリンピックは上手くいく。東京オリンピックプロジェクトは、2020年の経済効果が最大となると予測できるが、日経新聞によると、東京都は2020年東京オリンピック・パラリンピックが全国に及ぼす経済効果は、大会招致が決まった2013年から大会10年後の2030年までの18年間で約32兆3千億円と試算していると発表した。経済効果は、大会開催の直接投資や支出で生じる「直接的効果」と、大会後のレガシー(遺産)で生じる「レガシー効果」に分けて算



出した。都の担当者は「ロンドン大会を参考にすると、五輪の経済効果は大会後10年は続く」と見解を示している。いずれにしても7年前から始まった経済効果の種が2020年で刈り取られ、新たな経済発展への転換期となるのは事実だろう。

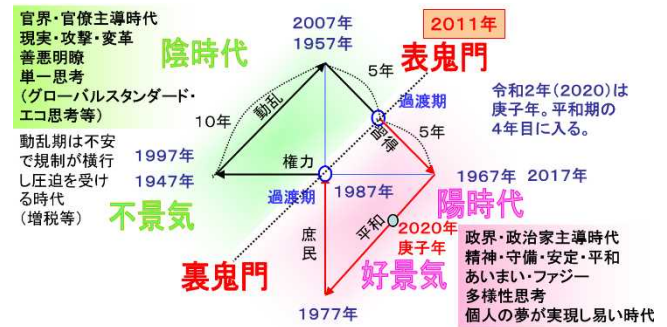
さて2020年庚子は日本の再出発の年となる。干支は60年に一度、同じ干支が廻る。つまり60年ごとに国家は同じような事象を繰り返すという事が学問として分析されている。60年前の事象を考察する事は60年後の2020年の国家事象の予測に繋がる。それでは60年前に何が起こったかを振り返ってみよう。

60年前は1960年(昭和35年)になる。1月には新日米安保条約行政協定に調印、2月にはフランスが原爆実験に成功、現天皇陛下の浩宮様が誕生、3月には韓国で大統領選挙を実施、不正選挙があり騒乱事件が起こる。4月には韓国で李承晩大統領退陣要求の学生デモが発生。デモによる政権影響の為、李承晩大統領が辞任。5月にはチリ地震津波で北海道と三陸地方に大被害があり、死者が139人となった。6月には改定安保条約批准阻止のための全学連7,000人が国会に突入。新日米安保条約が発行。7月には岸内閣総辞職。8月にはローマオリンピック開幕。9月には石油輸出国機構 OPEC が結成、カラーテレビの本放送を開始。10月にはナイジェリアの独立。11月にはケネディー米国大統領の当選。12月には南ベトナム民族解放戦線の結成。この事から、国際条約の改訂やデモ等による政権交代や紛争、戦争の発生、それによる地域、および国家の独立、技術革新の浸透などが予測される。また地震や水害、気温の乱高下は避けられないだろう。1960年はアフリカ独立の年として有名である。アフリカ大陸で17カ国が植民地からの独立を達成し、脱植民地化が進んだ。この年のアフリカの急激な政治的変化は、新たな時代の到来を予感させた。2020年も国家間における新たな関係性が構築されていき、新基準が打ち出されていく可能性が高いと予測できる。これからの時代は総合的に頭の良い人より、ほとんどの分野ではぱっとしないが、一分野だけ極端に優れているような人が浮上していきやすい。エリートの時代から専門職、職人の時代に入っていくと傾向が強くなる。

2020年庚子の国家運気の観点で観ると明るい陽の運気に入っている。地上では花が咲きほこり、風も爽やかで心がワクワクし、可能性に満ち溢れる時期になった。数年前からの日本国の運気は昔の高度成長期ほどではないが、アップダウンを繰り返しながらも、全体的に徐々に明るさを取り戻しつつある。そんな全体運の気が満たされる状態にある日本国家は、2020年は庚子年となる。今年は知的に激しく行動する事がテーマになる。庚＝激動、子＝聡明を意味するからである。天干が庚なので車騎星に変化する。従って開運の基本は、休みなく激しく行動し、働く事を意識する事である。また肉体改造、食事療法からの健康維持等の、車騎星が意味するテーマを実践していく事である。昨年に引き続き注意が必要なのは、天候の乱れと地震である。地支が子で激しい豪水を意味するので、気温の乱高下、土砂崩れからの津波等の水害、地域によってはかなり大きな地震が懸念されるので、防災には今まで以上に対策を考えて準備しておくことだ。

国家や会社組織は50年で1サイクルをする。動乱期(不景気の10年)→習得期(不景気が5年と好景気が5年)→平和期(好景気の10年)→庶民期(好景気の10年)→権力期(不景気の10年)という50年1サイクルを巡る事となる。不景気の25年、好景気の25年を大きく繰り返していく。不景気は前の好景気で作り上げた古いパラダイムを壊し、より良いパラダイムを構築する破壊と再生の役割を担う。その不景気で作り上げた新たなパラダイムやプロトコルを好景気に依って発展させ開花させる役割がある。不景気も好景気もそれぞれが相互依存の関係に在り、互いに影響を及ぼしているのだ。従って帝王は目先の数年だけを観て判断しては判断ミスをする。最低50年、出来れば100年先を見据えた意思決定をする必要がある。国家のスタートは憲法施行日、会社のスタートは会社登記日(定款

日)となる。日本国はスタートして74年目を迎える。好景気と不景気の50年の1サイクルを巡り終わり、現在は2サイクル目の好景気の9年目になる。学問的に日本国家は好景気(好景気と云ってもずっと右肩上がりなわけではない)が残り16年あるという事になる。2020年は平和期(経済が発展する経済台頭期)の4年目となり、好景気時代に入る。概ね景気は良くなるだろう。日本の国運は上昇し、世界の中で、かなりの強運に向かうと予測できる。経済は世界と連動する。トランプ大統領の下降運気に伴い、アメリカはこの1~2年以内に経済が失墜し、また中国の経済衰退の影響を受け、様々な不安定さは伴うが、日本単体で捉えた場合、経済は台頭していくと予測できる。2020年のオリンピック開催までは経済は活性化していく。また2025年に大阪場万博の招致が決まり、約3兆円の経済効果を生み出すと試算されている。オリンピック景気後、緩やかなアップダウンを繰り返しながらも、経済は徐々に台頭していくであろう。干支は60年で1サイクル、国家や会社は50年で1サイクルであることを混同しないようにして捉えて欲しい。



日本は、二旬目の経済台頭期に入った。二旬目の経済台頭期は、経済台頭する者としめない者に二極化する。その分かれ目は定量化できない人間力を高められるかである。AI(人工知能)とRPA(バックオフィス業務などをはじめとするホワイトカラー業務をソフトウェアに組み込まれたロボットが代行する取り組み、およびその概念)が台頭し、各業界が産業革命を起こす真ただ中にある。ルーティン業務は自動化され人間の仕事が無くなっていく。今まで以上に人間力が問われる業務が、人間に求められるようになる。その意味でも陰陽五行論を学び、人間力を身に付けていく事は時代論から観ても有利に働いていくだろう。

2. 2020年の意識するポイント

庚子が廻る今年は、次の要素を意識して生きていくとよい。心に落ち着きが無くなり、物事に対して先走って考える傾向が出やすい時期となる。現実には足が付いていないで、常に先に先に進み過ぎてしまうような感覚になってしまいがちである。それだけに先のことまで考えてしまい、要らぬ取り越し苦労が増えるようになる。ある面では現実逃避したくなるような状況を突き付けられることも多くなるだろう。心に焦りが出てしまい、行動に先走りたくても、実際には行動力に欠け、何処か冷めた人生体験をする可能性が出てくる。人生の傍観者的に、冷静な態度を取りたくなる事も多くなる可能性がある。現実に対する知恵が、実際の行動に結び付きにくい時期なのだ。しかし、智恵と行動力をしっかりとリンクする努力をすることで改善が促せる。そこで自由に動ける環境に飛び込み、冒険をすとか、今までにない行動をトライすることが成功する秘訣になる。この時期に新たな行動に飛び込まなかったり、動きの少ない人生を歩んでしまうと後悔の種をまく事になる。自分の固定観念や正しさを手放し、自由な発想や思考をする意識をする事で飛躍する時期である。従って安定を求めると失敗し易い時期であると表現しても良いだろう。安全安定よりも、新たなチャレンジや積極的な行動を意識すべきである。例えるならば、まるで自転車に乗るが如くである。自転車に乗る場合、怪我をしない様に低速で安全安定でペダルをこぐと、返って自転車は不安定な動きになる。ある一定のスピードを出した方が、自転車の動きは安定する者である。勇気が必要な方も居るだろうが、自分の心と体を鍛え、スピード感を持って積極的な行動を意識する事が庚子年を大きく飛躍していくポイントである。

3. 2020年の処世について

庚子の干支は異常なエネルギーを放つ。そんな今年は良きにつけ悪きにつけ、普通で居てはいけない時期である。今までの自分の在り方を、大きく変える時期である。今までの自分の正しさや価値基準を変えないと、陽転はしないだろう。今までの自分の正しさや価値基準を、どう変化させるのかが大切である。その方向性を陰陽五行論が導いてくれる。様々な方向性があるが、今回は陰陽論から紐解いてみよう。陰陽論は相対性の世界観を表現している。事象の表層は相対性で捉えられる。男と女、右と左、善と悪、清と濁、安定と変化、成功と失敗。。しかしその表層の根源は絶対的であるというのが東洋思想の相対理論である。これを一極二元論と云う。一見、異なったものに見える表層的な陰と陽は一極と云う根本で一つに繋がっているという思考方法だ。人間という一極は男と女、左と右で相対的に分類できる。ある事象は安定と変化、成功と失敗、善悪、清濁に分類できる。このように表層的に二極化に分類できるものは、ある価値基準から判断した上での結果でしかなく、保活的に捉えたと、全ては同じだという絶対的思考である。これが陰陽論の基本概念である。例えば、象は、硬い、長い、大きい、フワフワしていると様々な解釈が出来る。それはその判断をした者の立ち位置、つまり自分の正しさの基準からの表層的な判断でしかなく、それは絶対的ではないのと同じだ。絶対的には象は象なのだ。この視点から、今までの皆さんの在り方を捉えて欲しい。皆さんの今までの人生の在り方、生き方はある基準値から判断されたものである。つまり人生経験から創り上げた正しさだ。人は裏切るものだ、お金儲けが悪だ、他者は信じてもいつか裏切っていく、世の中は豊かだ、私は可能性に満ちている、人生は甘美である。これらの貴方の正しさは正解でもあるし不正解でもあるのだ。どんな価値基準を持っているかは別にして、庚子年は更なる価値基準を創造し、自分の正しさや在り方をシフトさせていくのにベストの時期である。そのためには他者の意見を謙虚に素直に受け入れていく事である。そこに自分の理解は必要ない。必要なことが必要なタイミングで人生に訪れてくるので、それそのものに意味を見出してはいけないのだ。つまり理解しないと受け入れないのは、自分の価値基準が大きく広がっていく障壁にしかならない。これはで人生に成長がない。自分の世界観しか受け入れたくないという者は、視野が狭く、エゴに苛まれているはずである。人生の苦悩は自分の考え方、在り方が決めている事を、早く理解すべきである。全てに身を委ねていくことが大切である。屁理屈小理屈を述べずに、ただただ味わい、受け入れていくのが一番早く陽転する道である。敵対を構築するよりは慈しみと謙虚さを。どちらの世界を見ても根本が同じであれば、好きな世界を見た方が、人生は楽しいはず。。皆さんはどんな世界を見て人生を歩んでいきたいだろうか。不安や葛藤や嫉妬や妬みや不安や恐れや痛みや悲しみの世界を覗がちな人が居る。楽しさや可能性、達成感、和合協調、慈しみ、自分の想いを分かち合い、愛する豊かさを覗がちな人が居る。ブッダは人生と云う事象には美しさを、人の命と云う事象には甘美さを見出した。彼はそんな在り方で生きたということである。それぞれ相対性の世界観の表現で在り、根本は同じである。その人の在り方で観る世界が変わってしまうという根本である。だからこの陰陽五行論は（宿命＋環境）×在り方＝運命という絶対的な公式を説いている。どんな条件や才能資質があろうと、今この瞬間のその人の在り方次第で人生の体験が大きく変化してしまう。つまり運命とは、人生の体験とは、今この瞬間の在り方次第で決まってしまうという根本概念を理解しなさいと説いているのだ。その在り方は、その人の成長レベルに依って、常に変化し続けるものだ。これが正解の在り方だというものも、ない。庚子年を、みなさんはどう在るのだろうか。立春の年始を機会に自問して欲しい。

